



江戸土産丸編

和装本

ル 4
1505
4

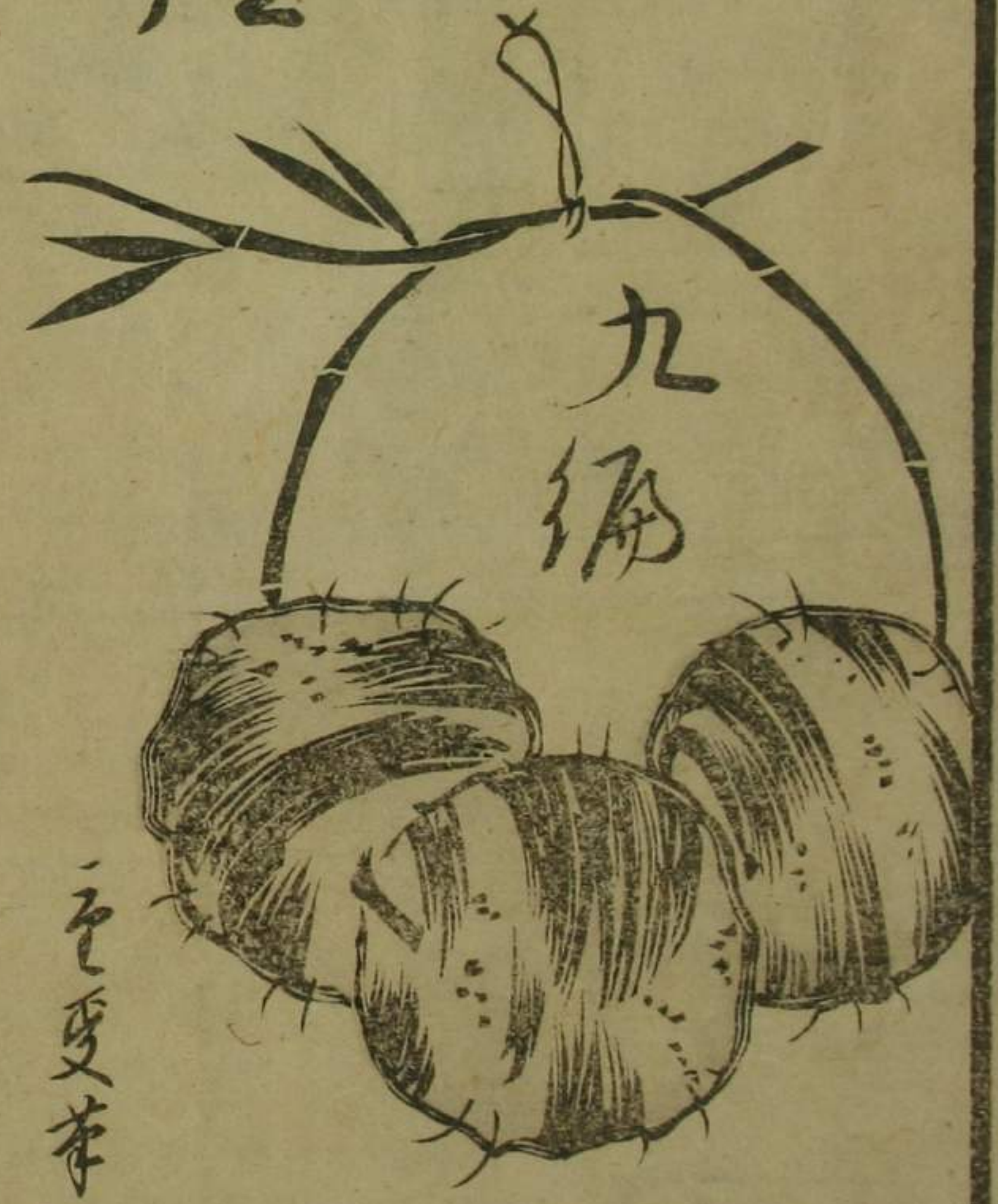


九編
1504
卷4

強本

江戸

土産



強を筆

全書全持

二重皮

江都土産九編序



遊山玩水之雅趣
倍々愛

秋老若稀
別々江戸大

却會名多
勝地之景
何事也
化邦

乃人
實地を踏
も見ん
と雅

か
道
を
見
つ
る
の
回
好
む
友
を
語
る
を

古
禮
と
相
本
述
も
未
だ
未
だ
書
も
綴
る
事



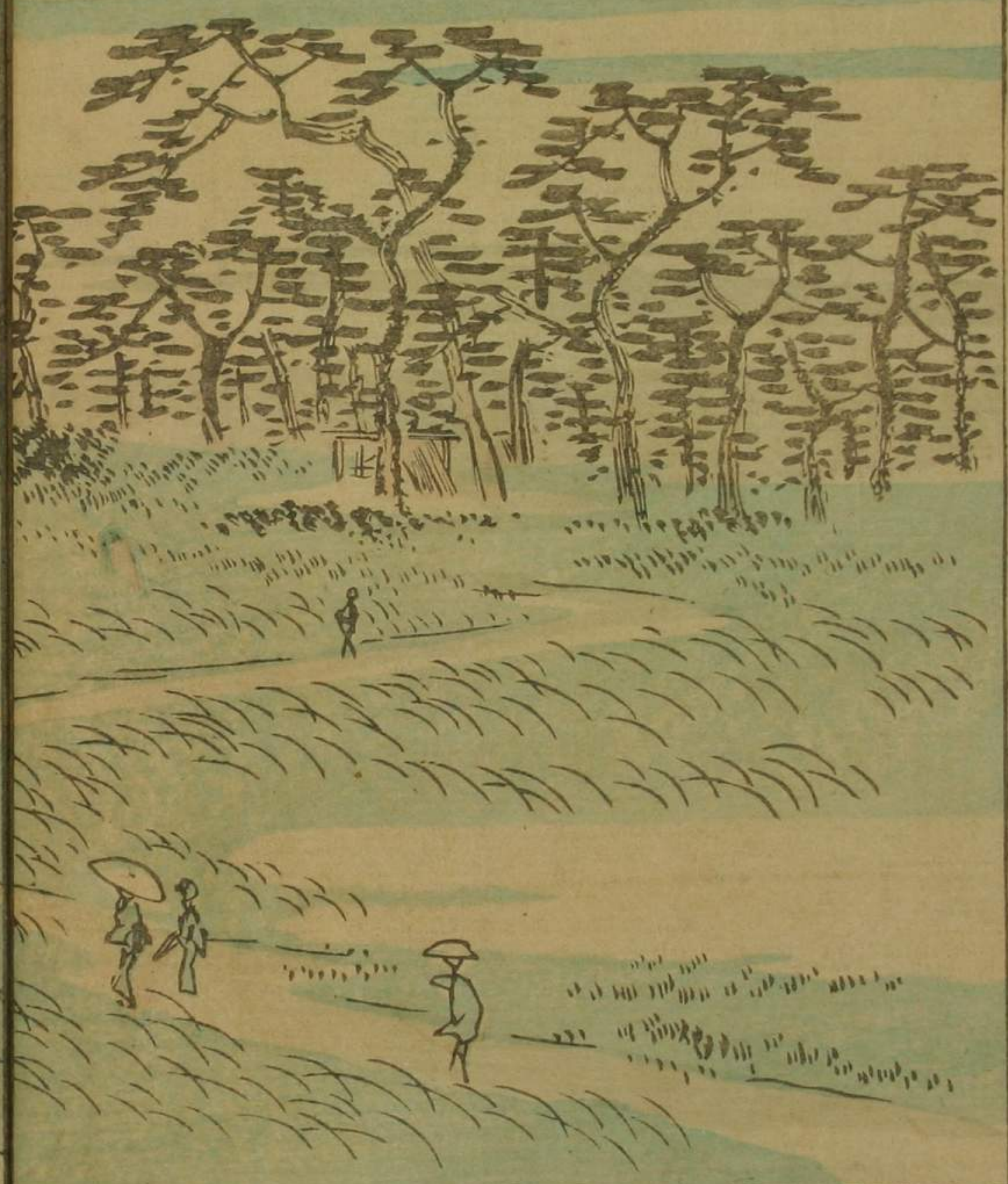
妙見の夏の前編み出
 此松小白蛇の住ま
 時とく形を
 見よる夏あり仍て
 松小注連を張り
 繪馬を納め
 祈願るま
 の多し

得^えず^し其^そと目^ま前^め見^みひ^る者^{もの}も画^ゑに^まし^る物^{もの}
 あり^ある^るは^はい^いと^と。纏^{まと}ひ^ひ一^い立^た齋^{さい}も^も人^{ひと}に^に需^{もち}て^て。此^{この}江^え石^{いし}
 土^{つち}産^う十^{じゅう}卷^{まき}を^を描^えく^く。今^{いま}其^{その}九^く輯^{しゅう}成^{せい}最^{さい}免^{めん}し^しり。
 十^{じゅう}輯^{しゅう}も^も稍^{しやう}刻^{こく}浅^{せん}なり^{なり}ん^ん。生^まつ^つは^は画^ゑ者^{もの}が^が二^に世^{せい}は^は妙^{めう}筆^{ひつ}。
 其^{その}地^ちを^を踏^ふむ^むし^しと^と其^{その}地^ちふ^ふ遊^{ゆう}ぶ^ぶの^の心^{こころ}地^ちを^を為^なす^す。

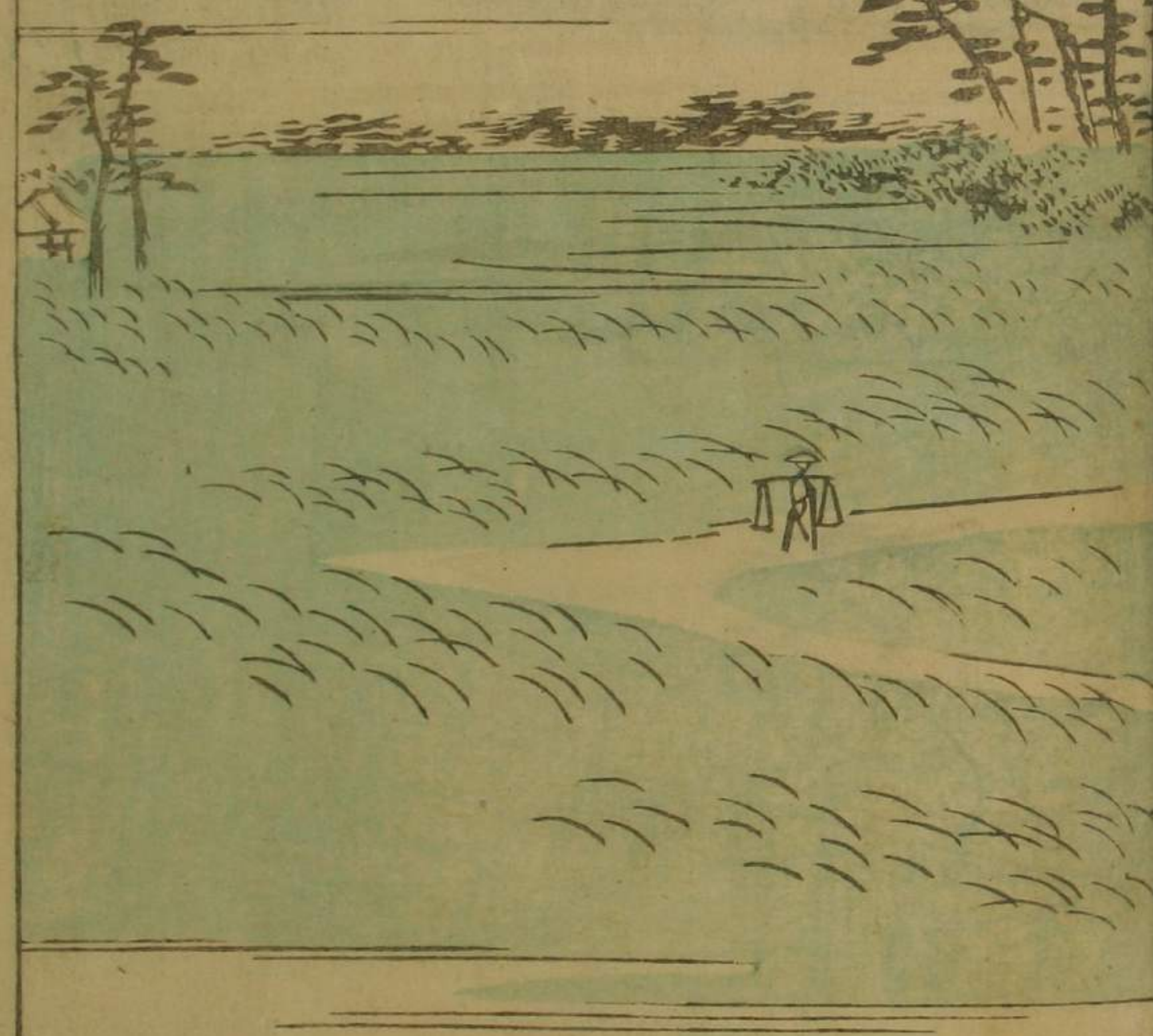
甲子夏日
 柳庭門主人喜水記

竹堂書

浅き
茅ち
原ち



妙亀比丘尼の
旧跡は三谷より
橋場へ往の道あり
鏡が池今も存とて
野客の開情を
ほろろとさきの地あり



越谷

鷲大明神

鷲大明神ハ江戸を

去る支四里余り常

させる見所也あらゆ

霜月の酉の市穴

を開くの神とあり

江都の者

ゆも更

近郷

群衆

泰

俗

大酉

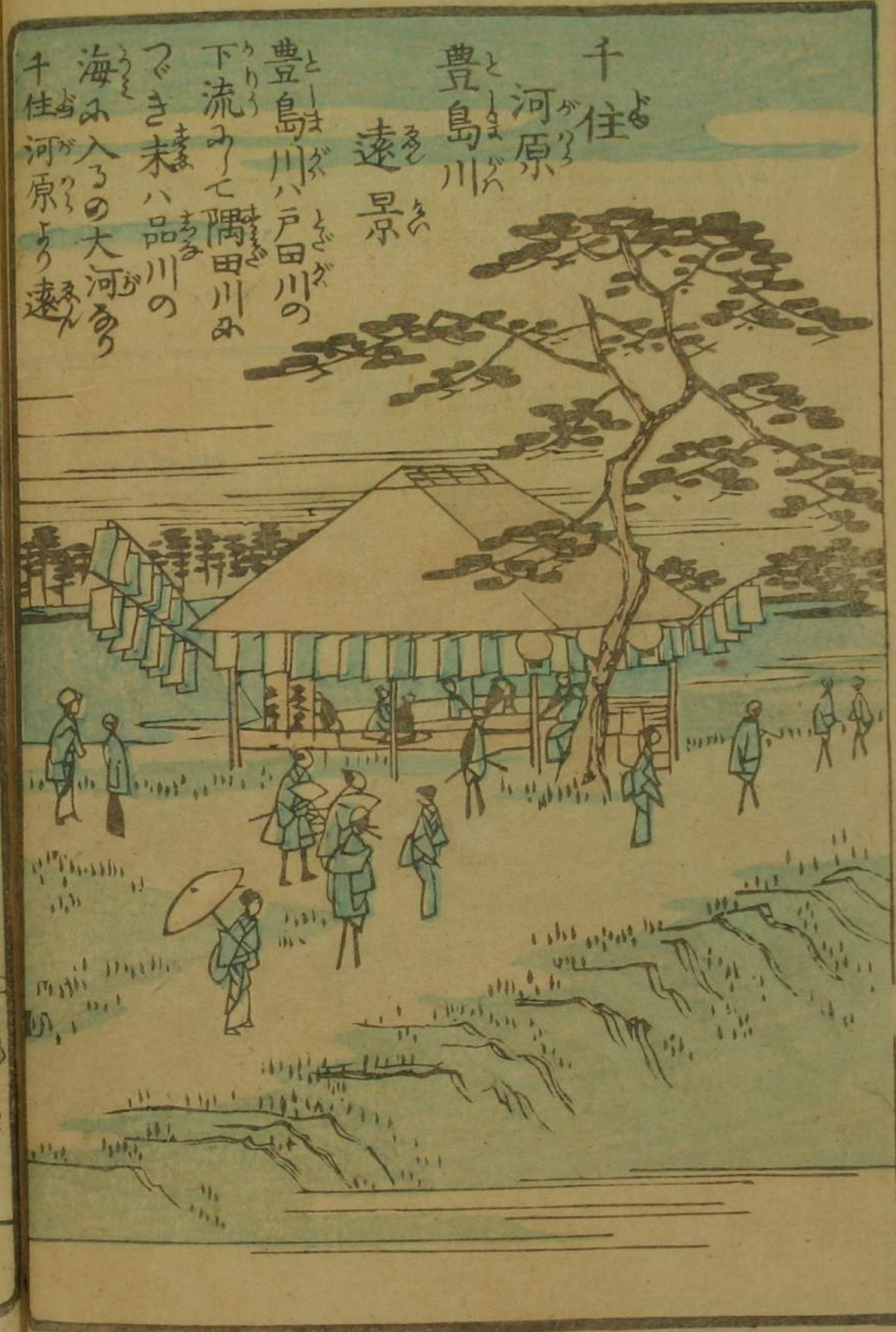
是

まり





望まらぬ屈曲して
 最妙なる画者
 の筆あそび
 尽一がさ
 くらん欵



千住
 河原
 豊島川
 遠景
 豊島川ハ戸田川の
 下流にて隅田川の
 つき末ハ品川の
 海に入るの大河あり
 千住河原より遠

西新井
大師

西新井ハ
千住街道
より西へ入込

と半道
許り常
小詣る
者あま

こひせ日
を縁日と

さへく
さん
参詣
あひ
し



團子坂
茶亭
之圖



團子坂ハ谷中の
うちみも小高き
地みで風景よし
四時ハ騷客歩み旅
運べる中みも別て九月
の頃ハ此あろうと種々の
菊を作ると
り春小中
増す
賓客
多し





磔川傳通
 院内
 大黒天
 本堂
 對ひ
 左の方
 あり利益
 のりとも
 と甲子
 の日
 別
 参詣
 群集

護国寺ハ関東真言の
 四ヶ寺の一にて本尊馬
 石の如意輪觀世立見
 唐土の請未ある
 より寺領千余石
 とんんさる構内
 廣くは珠數の
 躑躅花あり
 季春の比ハ
 色を争ひく
 りと艶あり

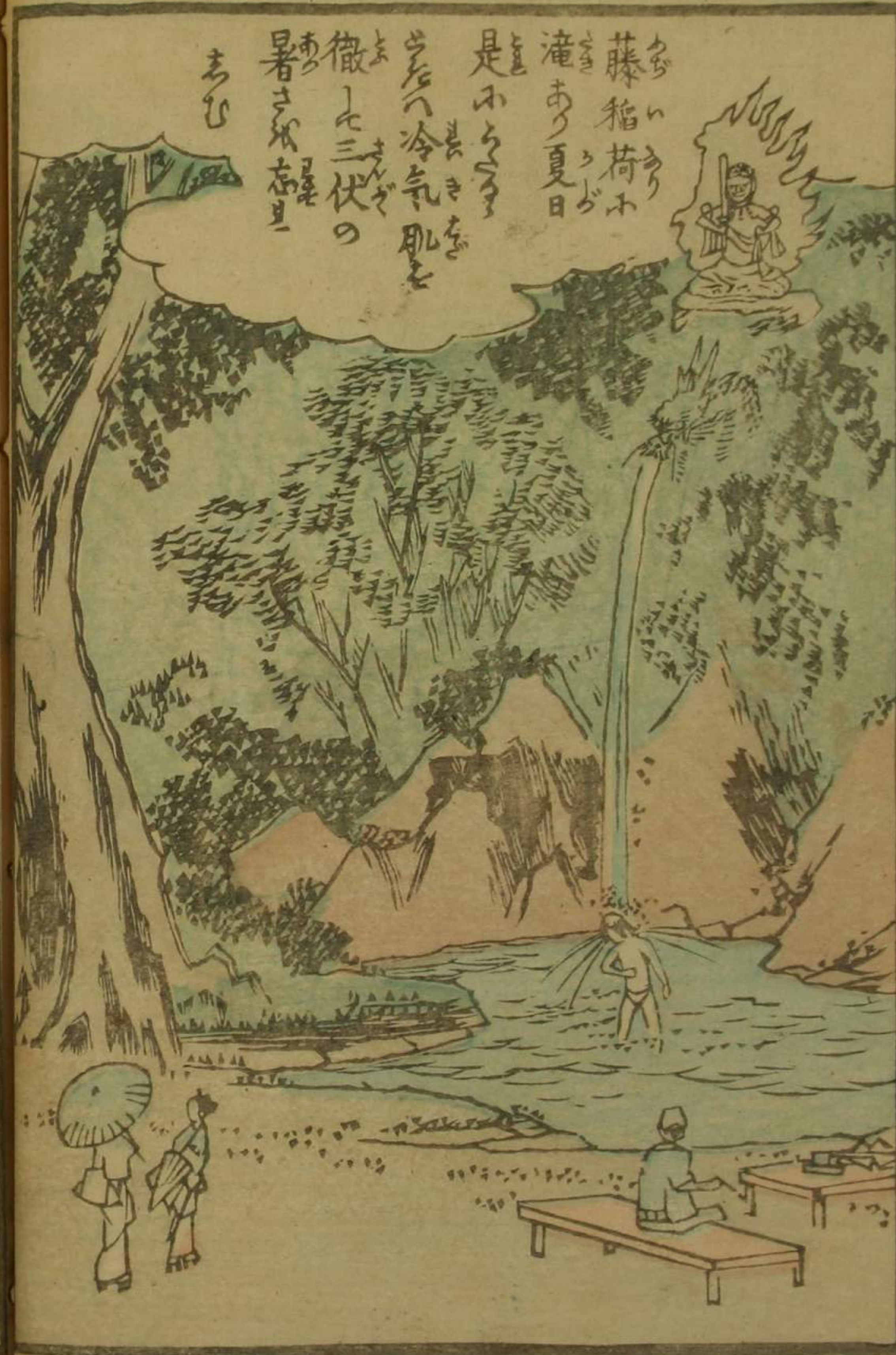


めらふもどろ
目白不動ハ
目黒と
かろく
高き女
あり眺望
のよは





藤ふじ 稻いね 荷かき 小こ
 滝たき あつ 夏なつ 日ひ
 是こゝ 不ふ 涼すず 哉や
 涼すず 氣き 肌み を
 徹とと 三さん 伏ぶく の
 暑あつ さ 忘わす れ 且また
 去さ る





穴八幡
 尾州侯
 戸山の
 御館の傍
 あら此
 植木屋多
 四季の花物
 絶ゆる





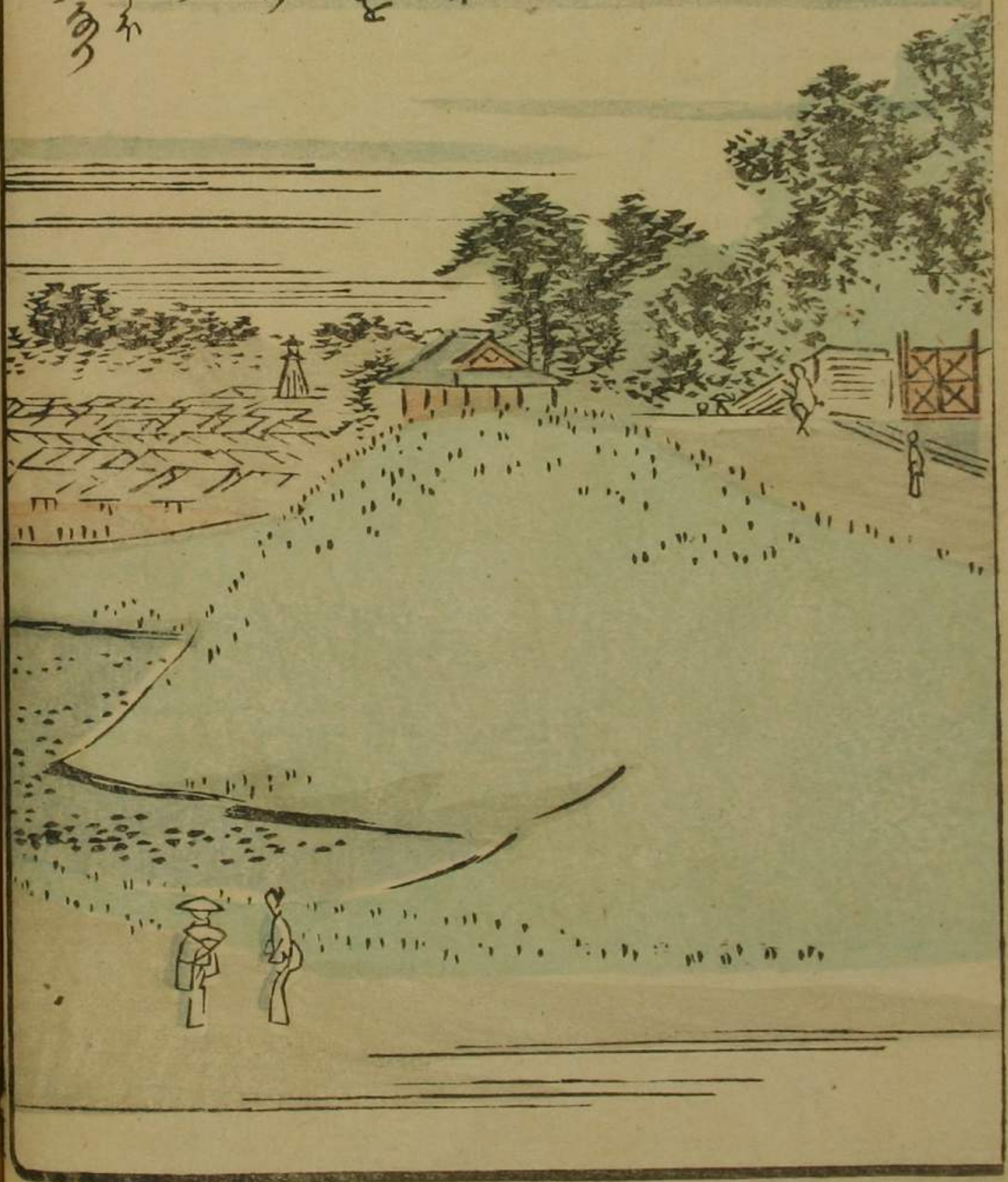
衣ころもや覆おほひん
 御堀ごほりの岸きしふ
 一樹いちじゆの柳やなぎあり
 春はるの音ねを
 殊こと更さらふし



外櫻田そとざくらの
 諸侯しよこうの弟宅あにや
 菟うをあそぶ音ねふ
 聞きへー霞かすみが関せき
 みのかの佐保さほ姫ひめが



喰違外 あつちがそと
 赤坂遠景 あつちがそと
 是より西ハ あつちがそと
 總て地高き あつちがそと
 所々俗ふ あつちがそと
 山の手とらへられ あつちがそと
 凸凹あつちとと あつちがそと
 得む余ハ爰より あつちがそと
 遠望をせふその あつちがそと
 詠め又一入あり あつちがそと

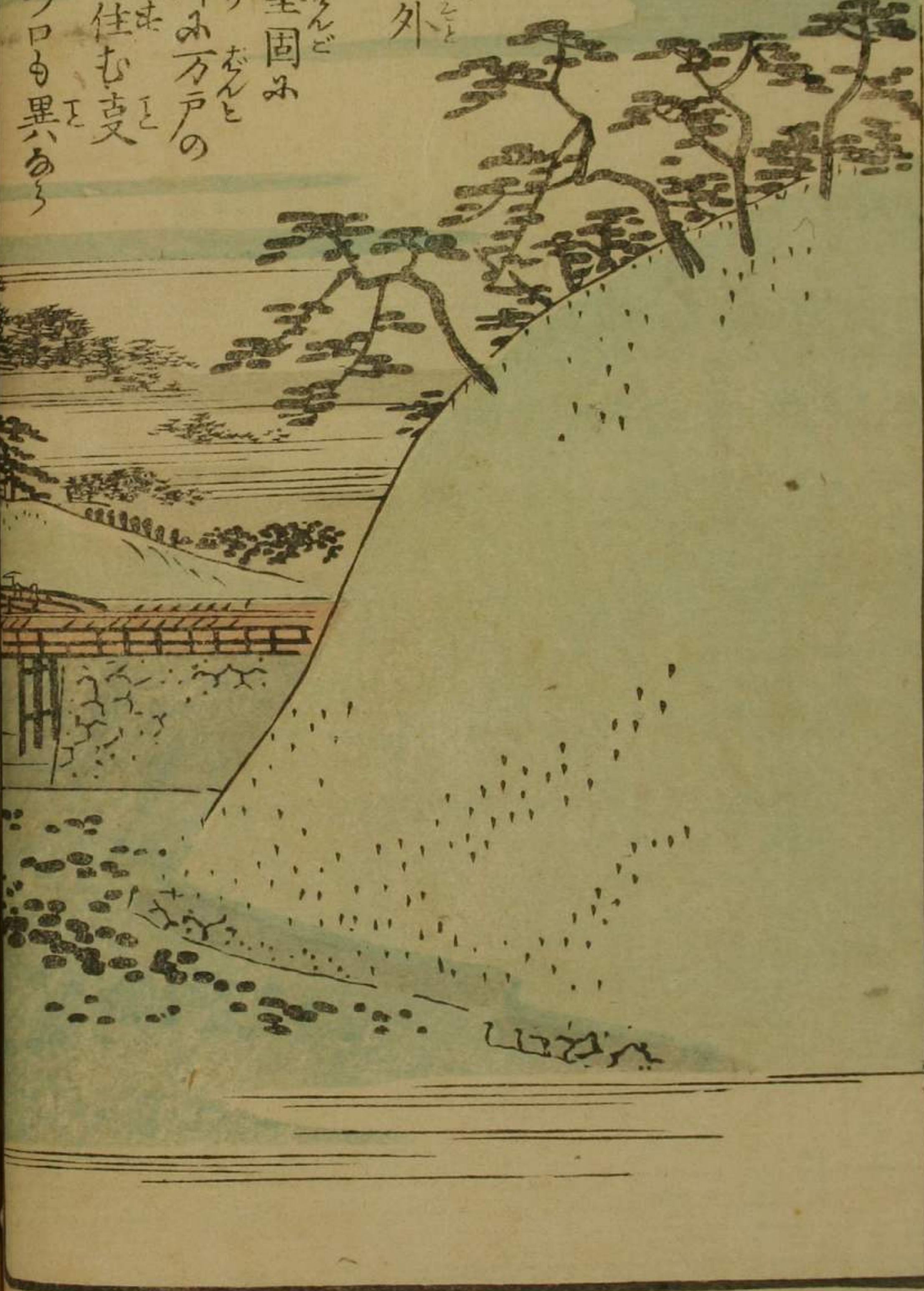




ねど別て甲州
 街道より入るの
 口ありてかの玉河の
 上水を引の大樋
 あう千歳不朽の
 御仁計仰ぐ
 へく尊むべし

大城堅固み
 一之外み万戸の
 商客住むま
 何もの口も異あう

四ツ谷
 御門外

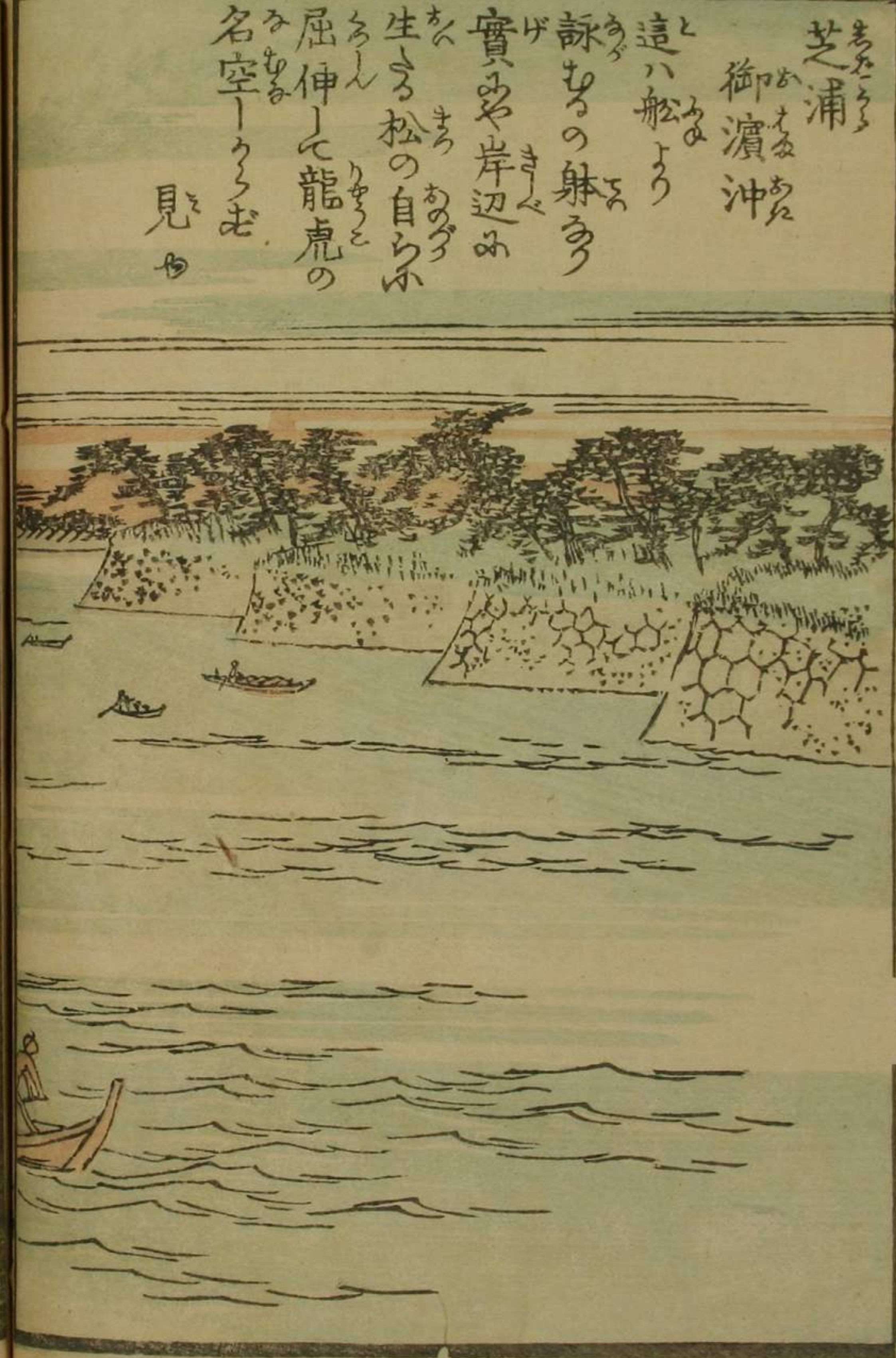
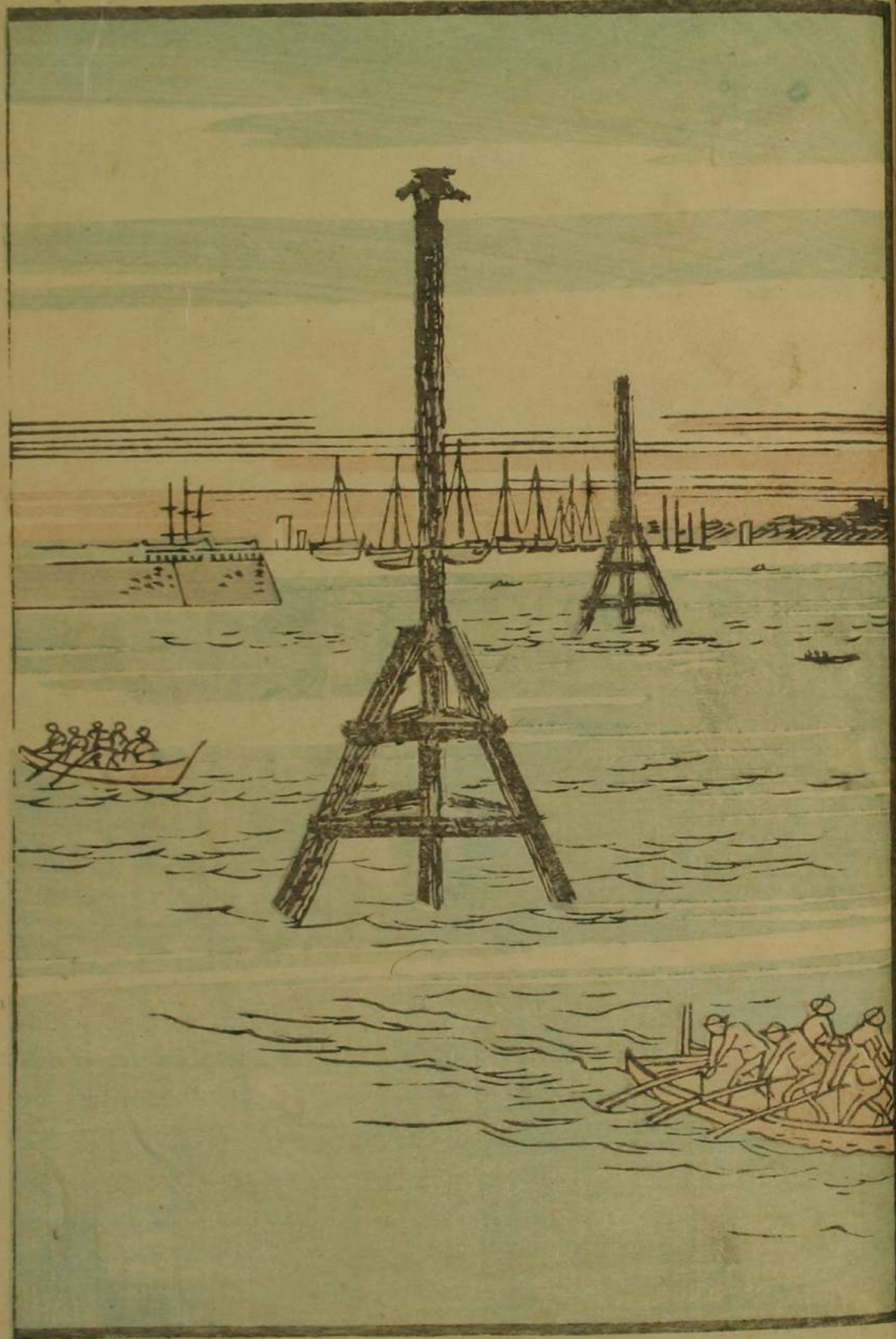




總の
 山をも
 遠望
 色む



深川八幡
 富士
 境内あり
 かの山開き
 と名づくる
 日より見物
 を念ふ
 做さむ
 頂に登る
 洲の沖を
 越へる



芝浦 あざなうら
 御濱沖 みまき
 這ハ船ふねヨリ
 詠あやむの躰たゝ多おほク
 實まこと多おほク岸きし辺へみ
 生ある松まつの自みづからふ
 屈ま伸のびし龍りゆう虎この
 名な空あかくさむ
 見み也や



赤羽根

増上寺の西南

當りてその地曠く

晴あり山み

若葉のよる頃ハ

郭公屢啼て

川辺の螢の飛ぶ

るを別て夏を

よとよとよと

あり



江都えとの
 於おて
 名木なぎの
 聞きへ最さい
 久くく春はる、殊こと更さら
 爛漫らんまんと
 花はなの下したに
 一瓢いちべつをこ
 ちる者もの
 絶たると
 絶たると
 絶たると



澁谷しぶや
 金王きんおう櫻おう
 櫻おう



穂田熊野あひだくまの
 大権現おほごんげん
 這ハ紀の国のこゝはきよのくにの
 写うつしてくるん
 深林ふかふか繁はげ茂も
 一いくく最も
 神寂かみさびさら
 利益りやくも
 尔おのことと
 憶おもひはせ
 尊たかしと





あまのついでに
青山穂田此四辺
半農半商うち
交りさ地を最
曠ちる春の
野ふふ出
を散せ



青山 あおやま
 梅之元 うめのもとの
 幽静閑雅 ゆうせいけんげ
 あり屬へん ありぞくへん
 うき うき 文人 ぶんじん
 風客の ふうかくの
 好むところ このこの
 詩歌連 しうたれん
 俳句自らの はいく句みづか
 ふ浮ぶ うぶ





青山
 竜岩寺庭中
 最風色は別て二樹の
 松ありて彼浪花屋の
 庭前も勝る
 案内を乞ふ
 一見ありまべし



仙壽院
 此地を新日暮と
 り前み出せ童岩
 寺小速うねい
 杖の序みいそんあ
 春の日の暮るごと
 忘る勝地
 あり



東 都 書 林

日本橋通丁目
同 貳丁目
同
同 四丁目
銀座貳丁目
芝神明前
同
横山町三丁目
浅草茅町
馬喰町貳丁目
同
同
人形町通乘物

須原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛
小原屋新兵衛
須原屋佐助
山城屋政吉
岡田屋嘉七
和泉屋吉兵衛
和泉屋金右衛門
須原屋伊八
森屋治兵衛
山口屋藤兵衛
菊屋幸三郎
菊舎幸三六



